



慶應義塾大学ビジネス・スクール

男性のセクシャルハラスメント：A 氏の話（A）

5

私（A 氏）はある企業で 20 代のころから営業職に就いていました。新卒でこの会社に入ってからずっと地方都市の支店 2 か所に配属されていましたが、30 になった頃、初めて東京の大きな支店に異動になりました。東京には会議や研修で何度か来ていましたが、実際に住んで働くのは初めてです。顧客の数もこれまでの支店の時より増え、後輩の育成を任されることも以前より多くなり、ますます仕事を頑

10

張ろうと意気込んでいました。

私の上司（50 代、男性）は面倒見の良い人で、新生活に慣れたかなど、いろいろと気にかけてくれました。そのおかげで異動後の職場や仕事に、すんなりと溶け込めたとと言えます。そんなことから、当時は上司に非常に感謝していました。仕事も大変できる人で、部下には無駄な残業を極力させず、「週末はきっちり休んで余暇を楽しみ、十分に充電したうえで月曜日に出社して来い。」と言うような

15

人でした。上司は時々部下を誘ってランチに出かけるなどしていたので、私もよく一緒に出かけたものです。

そんな上司とある週末に、二人で日帰り温泉巡りに出かけることになりました。以前の職場は温泉地から比較的近く、チームや親しい同僚と日帰りで行くことが多かったため、私は自然と全国の温泉地に

20

詳しくなっていました。東京からは長野や群馬の温泉地まで日帰りで行けるので、いずれ行ってみたいと思っていました。そんな時、上司も温泉巡りが趣味と分かり、折を見て一緒に行こうと話していたのです。

旅行当日は私が運転しました。途中までは順調でした。世間話などをしながら景色を楽しみ、温泉を堪能しました。しかし帰り道に、だんだんと上司の様子がおかしくなっていたのです。最初は私の膝に手を置きました。冗談かと思い、気にしないように努めて、「夕陽がきれいですね。」などと言っていました。そうしたら、上司は私の股間をズボンの上からもみ始めたのです！何が起きているのか、全く信じられませんでした。頭の中がパニックで真っ白になりそうでした。しかし、ハンドルを握っているのは私です。運転に集中しなければ、事故を起こしてしまいます。

25

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 山尾佐智子がクラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は <http://www.bookpark.ne.jp/kbs/> から。

30

Copyright © 山尾佐智子（2020 年 6 月作成）